

いすみ地区モビリティサポートモデル事業 の概要について

いすみ市モビリティサポート事業推進協議会

いすみ市の概要

人口約4万2千人の自然豊かなまち
漁業が盛んで海のレジャーに適した
大原地区

全国的に有名な「大原はだか祭り」
(2日間で観光客約5万人)



大原はだか祭り(汐ふみ)



伊勢海美



マリンレジャー



いすみ鉄道

地域の状況

< 地区の状況 >



< 人にやさしいまちづくりの取組 >

- モビリティサポートモデル事業（平成21年度）
- 大原駅のエレベーター設置（平成22年度）
- ノンステップバスの導入（平成21年度）
- バリアフリー教室の開催（平成21年12月18日）



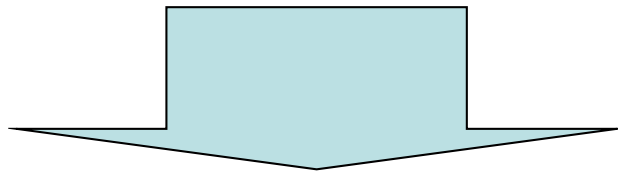
地域の課題

< 地域課題 >

高齢者が多く（高齢化率29.9%）、日常生活の移動において安心して外出できる環境づくりや情報提供が必要

商店街や飲食店、土産物店などの取扱商品や店舗位置などの情報入手が困難であり、市民や観光客に十分に周知されていない。

市民や観光客へ医療情報が十分に周知されていない。



モビリティサポート事業の活用による「人にやさしいまちづくり」を推進

高齢者が一人でも安心して外出できる環境づくり

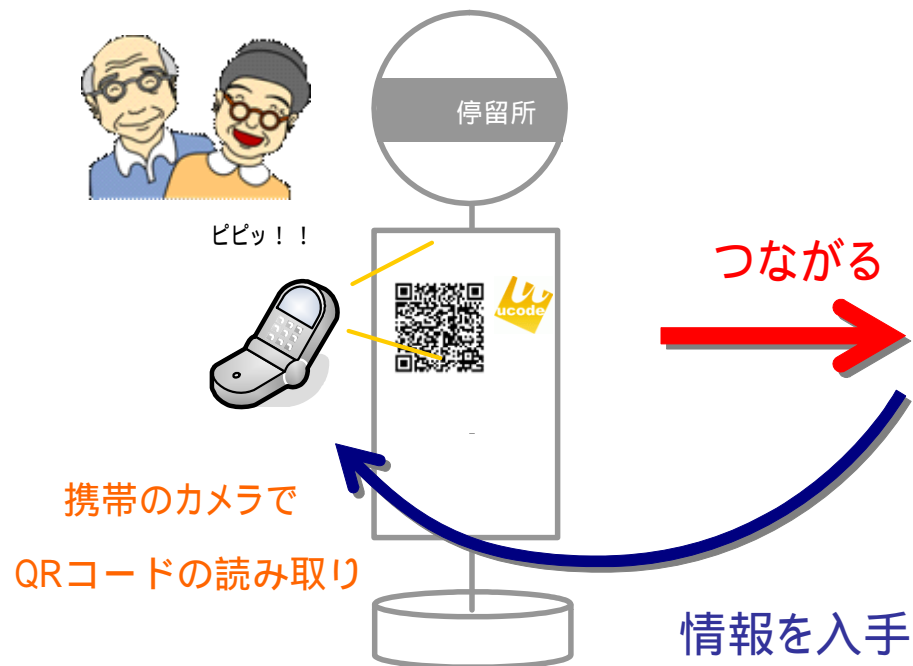
二地域居住者にも暮らしやすい（わかりやすい）環境づくり

観光客にも行動しやすい環境づくり

いすみ市モビリティサポート事業イメージ

ユビキタス技術で、まちをもっと楽しむ、新たなまち歩きツール

バス停留所に設置したQRコードから携帯電話で、
まちの情報に簡単アクセス
目的地までのルート案内、歩行支援情報の提供
まちなかの買い物・グルメ情報、観光情報など
魅力を紹介
医療情報（平日及び休日・夜間の救急医療）や
バリアフリースイレなどの安心に関する情報提供



《情報提供メニュー》

地域イベント情報

周辺交通情報

(鉄道、バス、タクシー)

おすすめスポット

(商店街、飲食店、土産物店、観光施設、及びバリアフリー状況)

医療情報

公共施設等

(公共施設、バリアフリートイレ)

歩行支援情報の提供

大原中央商店街のカラー舗装



国道128号の歩道



いすみ市周辺の地域情報などが検索できます

いすみ おでかけナビ

※社会実験対象エリア：大原駅を中心とした半径1km内外の情報を提供します。

矢印記号(⇒)の青字のメニューを選択してください。

アンケートにご協力をお願いします。

現在地は「大原駅」です。

QRコードから位置情報を取得

地図を拡大縮小できます。

← 拡大 縮小 →

初期画面へ

- 🏠 地域イベント情報
 - ⇒ イベント情報 (いすみ市モバイルサイト)
- 🚗 周辺交通情報
 - ⇒ 鉄道情報
 - ⇒ バス情報
 - ⇒ タクシー情報
- 📍 おすすめスポット
 - ⇒ ショッピング
 - ⇒ 食べる
 - ⇒ 遊ぶ・観る
- 🏥 医療施設
 - ⇒ 医療施設
 - ⇒ 休日・夜間の連絡先
- 🏢 公共施設
 - ⇒ パブリックアート
 - ⇒ トイレ

🏠 トップページへ [0]

©いすみ市モビリティサポート事業推進協議会
⇒ 詳しくはこちらへ

最寄りの公共施設を調べてみよう!

■最寄りの順に施設を表示

現在地から近い順に施設の一覧を表示します。

■施設の情報を表示

施設の一覧をクリックすると施設の情報を調べることができます

- 公共施設を選択 (距離250m以内)
⇒ 大原駅前交番 (距離: 約30m)
- 公共施設を選択 (距離250m以上)
⇒ 大原文化センター (距離: 約840m)
⇒ 大原小学校 (距離: 約870m)
⇒ 大原郵便局 (距離: 約890m)
⇒ 県立大原高等学校 (距離: 約720m)
⇒ いすみ市役所大原庁舎 (距離: 約740m)

■施設名: いすみ市役所大原庁舎
住所: 千葉県いすみ市大原7400-1
TEL: 0470-62-1111

■バリアフリー対応状況
スロープ: あり
出入り口幅80cm以上: あり
障害者用トイレ: あり (オストメイト対応)
車イス用駐車場: あり

歩きやすい道順の参考に

■歩きやすい道順の参考に

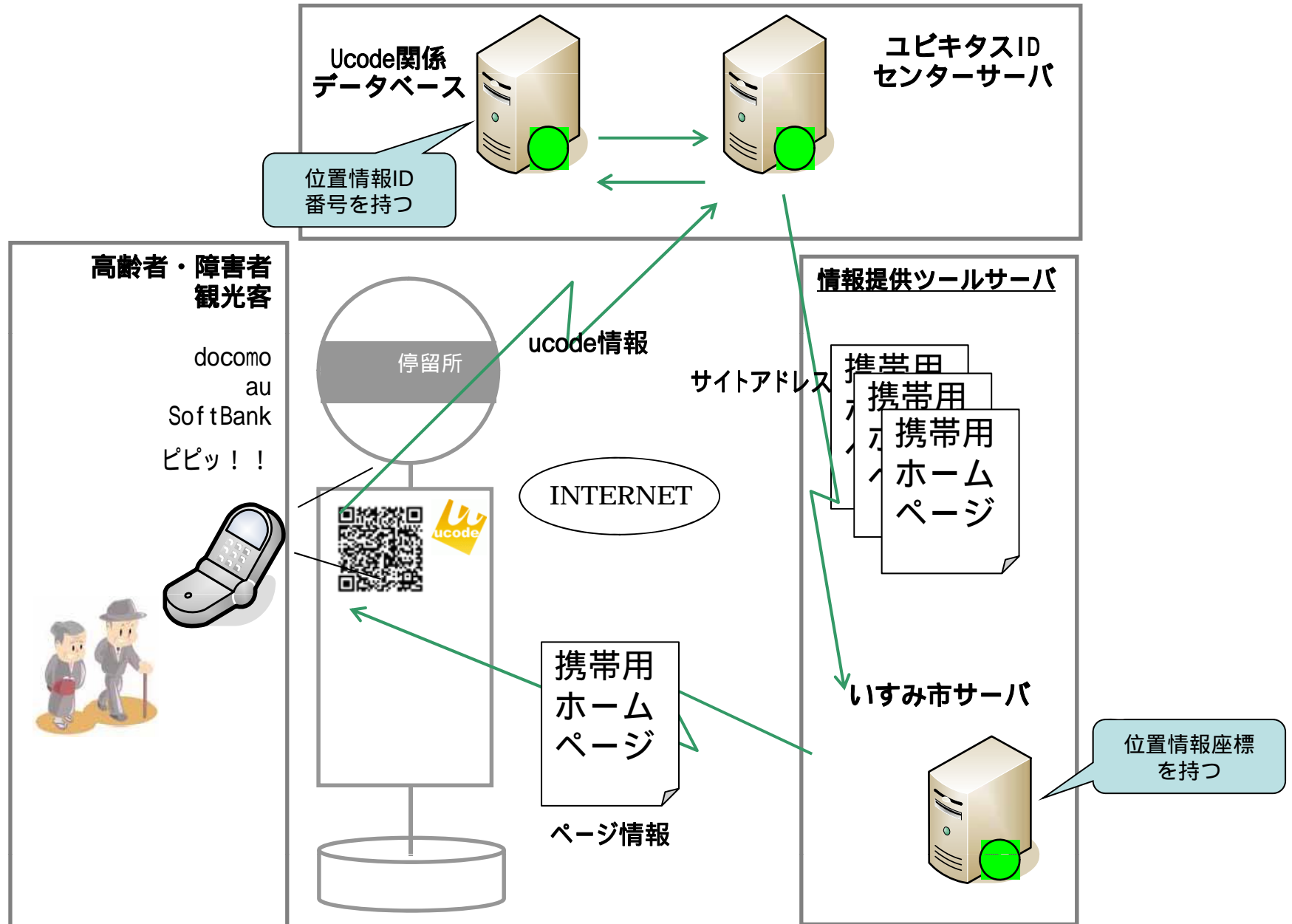
現在地から目的地までの最短ルート以外に、歩道の段差の有無などを確認できます。歩きやすい道順の参考にしてください。

- 📍 現在地
- 📍 目的地
- 🗺️ 案内ルート
- 🟢 カラー舗装
- 🟡 カラー舗装幅1m未満
- 🟠 歩道あり
- 🔴 歩道幅1m未満
- 📏 勾配あり
- 🏠 休憩所



システム全体構成イメージ

現在位置情報へのリンクを示したゲートウェイアドレス方式によるucodeを用いて、いすみ市サーバへアクセスする方式を用いる。



モデル事業の実施

目的：歩行者への移動支援として、携帯電話を用いた情報提供を行うことの有効性および効果をアンケート調査を用いて検証

提供エリア：JR大原駅を中心とした概ね半径1km内外のエリア

社会実験	対象者	開催時期	実験の目的
フェーズ1	観光客	平成21年9月19日(土)～ 平成21年9月27日(日)(9日間) (大原はだか祭り9/23-24)	土地勘のない観光客のまち歩きツールの提供
フェーズ2	居住者	平成21年11月23日(祝)～ 平成21年12月20日(日)(28日間)	高齢者や障害者等が手軽に利用でき、利便性の良い情報提供環境の構築



バス停QRコード



〈フェーズ1〉いすみ市観光センター(大原駅前)



〈フェーズ2〉
バリアフリー教室での
QRコードの体験会

アンケート結果による事業の評価

《達成目標 1》

特産品、お買い得品、看板商品などの情報を発信する店舗が増え、市民や観光客が店舗等を選択しやすくなる。

評価指標

店舗等情報、ルート案内の利用者数、およびそれらの情報の有効性

情報の役立度
6割以上(/ 情報取得者数)

情報を得たことによる店舗等への立ち寄り意志の変化

情報取得による来客数等の変化がある
6割以上(/ 情報取得者数)

評価

観光客 : 役立度 7割弱(/n43) 達成
: 立ち寄り意志変化 8割強(/n43) 達成

地域に精通していないため店舗情報や店舗までのルートなどは有効な情報
店舗等の選択性や地域特産品取扱店などの認知度の向上
店舗への立ち寄り意志の向上

居住者 : 役立度 7割弱(/n51) 達成
: 立ち寄り意志変化 7割弱(/n51) 達成

地域にある程度精通している居住者にとっても、地元の店舗情報は有効な情報
情報取得の容易さや知らなかったお店を知ることができることを支持

課題

ルート案内の分かりやすさ向上
店舗情報の探しやすさや充実
居住者の求める鮮度の高い情報
商店街と連携した情報収集や更新方法・主体

アンケート結果による事業の評価

《達成目標 2》

高齢者や障害者等が、バリアフリー対応店舗やトイレの情報を容易に入手でき、安心して買い物や観光ができる。

評価指標

バリアフリー対応店舗やトイレ、ルート案内、バリア等の歩行支援情報の利用者数、およびそれらの情報の有効性

情報の役立度・必要度
: 6割以上
(/ 利用者数・回答者数)

評価

観光客 : バリアフリー情報役立度 7割弱(/n14) 達成
: ルート案内役立度 8割弱(/n76) 達成

施設のバリアフリー情報は有効な情報
観光時には利用可能なトイレの情報は重要。

居住者 : 歩行支援情報必要度 6割強(/n60) 達成
: 店舗バリアフリー情報役立度 5割弱(/n51)

施設のバリアフリー情報や案内ルート上の歩行支援情報は有効な情報
店舗の選択やルート選びに役立っている。

課題

バリアフリー情報の質や精度の確保と、民間施設も含めた効率的な情報収集方法、更新方法
高齢者、障害者等の意見収集

アンケート結果による事業の評価

《達成目標3》

いつでも、どこでも医療機関情報を入手でき、安心感が増す。

評価指標

医療機関情報の利用者数、
およびそれらの情報の有効性

安心感の向上: 6割以上
(/ 回答者数)

評価

観光客 : 安心感が得られる 6割強(/n95) 達成

観光時の安心感の向上が期待できる。

居住者 : 安心感が得られる 8割弱(/n87) 達成

生活の安心感の向上が期待できる。

いすみ市ではマリンスポーツを目的とした来訪者も多く、緊急時への備えとして有効な情報になる。

《モバイル情報提供システムの評価》

システムの評価

システムの便利さは一定の評価。
現在地周辺の情報が得られることが高評価。
(施設情報は現在地から近い順に表示)

ルート案内

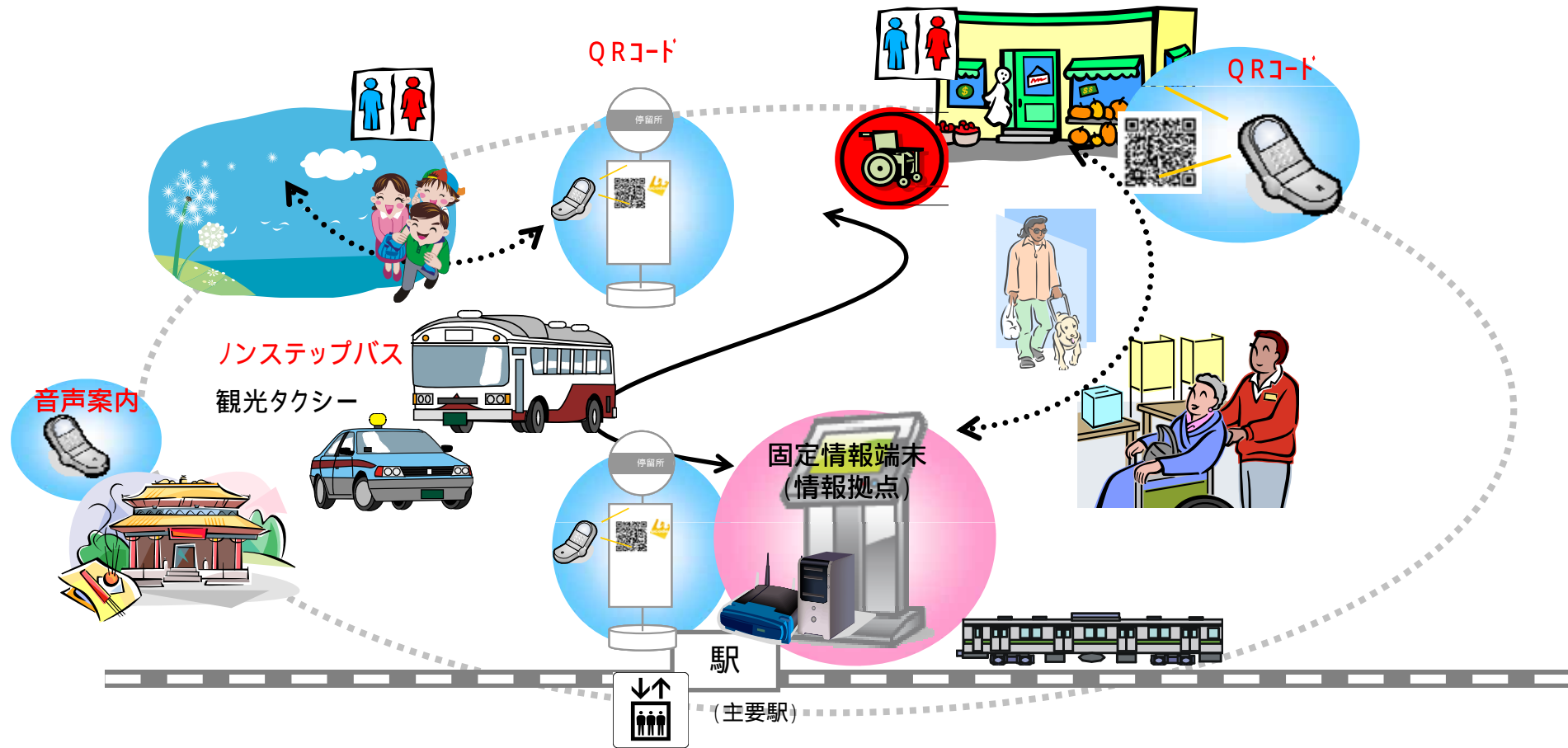
観光客にとって、大原はだか祭り会場や店舗までのルート案内が役立った。

システム利用の支払い意志額

観光客: 1日 100円程度
居住者: 1ヶ月 100円程度

継続的な取組と目標

各種事業の連携による「人にやさしいまちづくり」の実践と継続



今後は、いすみ市モビリティサポート事業推進協議会の体制を存続させ（(仮)いすみ市ICT推進協議会）、いすみ市を事務局として運営していく。

本システムのメリット

メリット1 : 土地勘のない観光客等でも、簡単に携帯電話を利用して観光資源や目的施設までの情報を入手することができ、まち歩きや観光資源めぐりを楽しむことができる。

メリット2 : 地域イベント情報など、季節や客層等に合わせた地域情報をタイムリーに提供することができ、施設・店舗等への立寄り意向増加などによる地域活性化が期待できる。

メリット3 : QRコード設置コストが殆ど掛からず、ポスターやパンフレットなどに簡単に掲載可能であり、かつ密度の高い情報を提供することが可能であり広報効果が高い。

水平展開について

利用端末、位置特定インフラ等

ポイント1：普及率が高い携帯電話を活用
事業者にも利用者にも負担が少ない

ポイント2：QRコードを活用
誰でも簡単にアクセスができ、位置の特定が可能

歩行支援情報

ポイント3：歩行ルートを地図上に表示
QRコードを読み込んだ位置をスタート地点とし、目的の施設を選ぶだけで、施設までの歩行ルートを地図上に表示

ポイント4：バリア情報を地図上に表示
歩行空間のバリアフリー化が進展していない地域において、歩きやすさの判断材料となるバリア情報（歩道の有無、勾配・段差の有無等）を提供

ポイント5：地域の実情に合わせたシステム構築によるコスト縮減
道路密度が低く、歩行空間の整備が遅れている地域においては、歩行空間ネットワークデータの構築及びルート検索を簡略化することによりコスト縮減を図る。